

せんそういせき たず
戦争遺跡を訪ねる

史跡めぐり歩こう大会

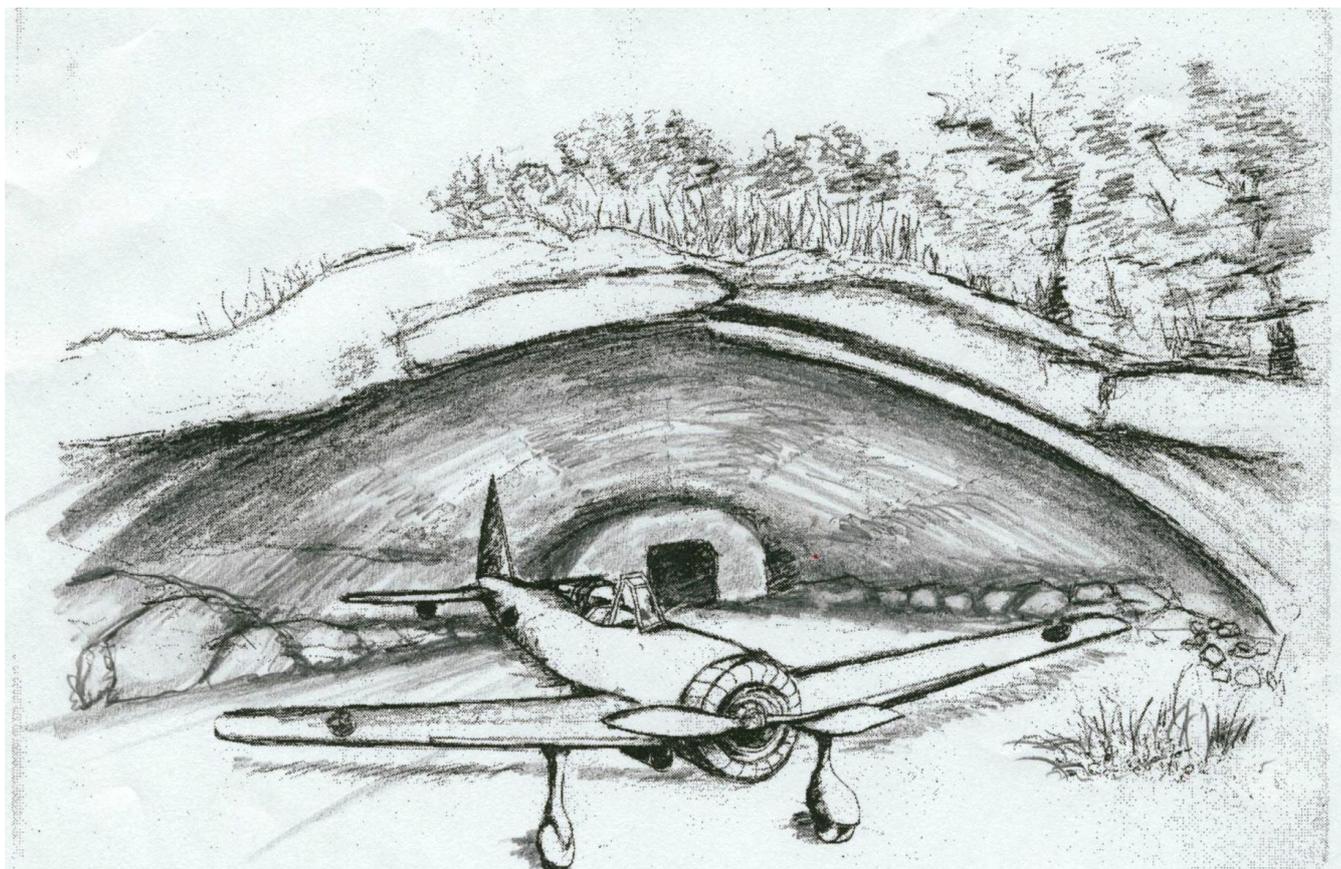
《とき》平成25年5月19日（日）

◎受付時間：9時00分～9時30分

◎出発：9時45分 ◎帰着：14時30分頃の予定

【史跡ポイント】

- ①地下戦闘指揮所 ②特攻慰霊碑 ③気象観測所 ④特攻神社 ⑤ボイラー室
⑥滑走路跡 ⑦第二出水海軍航空隊地下壕 ⑧下水流小学校地下壕
⑨第二出水海軍航空隊隊門 ⑩第二出水海軍航空隊跡 ⑪掩体壕



へいわちょう えんたいごう
絵：「平和町の掩体壕」（飛行機を敵の攻撃から守るための格納庫）

1 地下戦闘指揮所



本土への空襲が避けられなくなってきた昭和19年頃には、全国的に主要な作戦施設は地下に設置されるようになりました。この地下壕は通信施設を設けた戦闘の指揮所として利用されました。もともと壕の入り口は4か所ありましたが、空襲により、2か所が破壊されました。

2 特攻慰霊碑



この碑は、特攻碑建立委員会が市民に募金を呼びかけ、集められた基金を基にこの土地を購入し、昭和35年に建立したものです。碑には、阿川弘之の小説「雲の墓標」の一文「雲こそ吾が墓標落暉よ碑銘をかざれ」が刻まれています。

3 気象観測所



航空隊が設置されたころは無線通信所として使用されていましたが、出水航空隊が練習航空隊から作戦部隊の基地として利用されるようになると、通信所は高尾野方面に移設され、その後に気象観測所として利用されました。ほかの地上にある施設が空襲でほとんど破壊された中、被害をまぬがれました。

4 特攻神社



この神社は、もともと昭和18年に海軍航空隊の隊内神社として建てられました。終戦により廃宮となりましたが、この地を最後に特攻隊員として出撃された方々を偲び、有志の方々が資金を募り、元の隊内神社跡に特攻隊員をご祭神として平成元年に建立されました。

5 ボイラー室



隊員達の炊事のために作られたもので、現在は残っていませんが、この近くに烹炊場(ほうすいじょう:兵隊の食堂)がありました。ボイラー室は2棟平行に建てられており、その間に屋根が付けられ、そこに石炭が貯蔵されていたそうです。

6 滑走路跡



この滑走路は、出水海軍航空隊の主滑走路で長さが1,500メートル、幅90メートル、コンクリート舗装の滑走路で北西に向かって作られました。この滑走路の他に補助滑走路が2本ありましたが、いずれも未舗装の滑走路でした。

7 第二出水海軍航空隊地下壕



下水流地区には昭和19年8月に飛行機の整備教育を任務として第二出水海軍航空隊が開隊しました。この付近は第2航空隊の本部が置かれていた地区で、地下壕は第二航空隊の施設として作られたものです。4か所の出入り口があり、ほぼ完全な形で残っています。

8 下水流小学校地下壕



下水流小学校に残されている地下壕で第二出水海軍航空隊の施設でした。第二出水海軍航空隊は、昭和20年7月に解隊しましたが、この場所にあった隊舎は鹿児島から移転してきた第七高等学校造士館の校舎として昭和20年11月から昭和22年9月まで使用されました。

9 第二出水海軍航空隊隊門



第二出水海軍航空隊がこの地に設置された時に建てられた隊門とされています。正面左側には、この航空隊の隊員であった方々が平成10年に建立した「第二出水海軍航空隊の碑」と「歌碑」があります。

10 第二出水海軍航空隊跡



丸で囲まれた部分が第二出水海軍航空隊の施設部があった場所です。現在の千間山付近にあたります。基地に所属した隊員数は1,500名にも及び、そのうち1,200名は飛行機整備の練習生でした。当時の建物などは残っていませんが、区画は現在も道路として残っており、当時の面影を残しています。

11 掩体壕



掩体壕とは敵の空襲から飛行機を守るために作られたものです。掩体壕には、この掩体壕のようにアーチ型の天蓋がある有蓋掩体壕と天蓋の無い無蓋掩体壕に分けられます。現在市内には、3基の有蓋掩体壕が確認されています。



年号	出水基地を中心に出水でのできごと	世界・日本のできごと
1894年(明治27年)		日清戦争がはじまる
1904年(明治37年)		日露戦争がはじまる
1914年(大正3年)		第一次世界大戦がはじまる
1936年(昭和12年)	飛行場予定地の買収がはじまる	日中戦争はじまる(7月)
1940年(昭和15年)	飛行場の完成 佐世保海軍航空隊が派遣隊をおくり、飛行作業を開始	日独伊三国同盟調印(7月)
1941年(昭和16年)	空母「蒼龍」、「飛龍」の飛行部隊が出水航空隊に収容され、真珠湾攻撃に向けて、錦江湾や七尾島で戦闘訓練を行う。(6月～11月) その後、大村海軍航空隊の派遣隊や元山、美保の航空隊が移駐	真珠湾攻撃(12月8日) 太平洋戦争はじまる
1942年(昭和17年)	練習航空隊として出水海軍航空隊が発足(4月1日)	マニラ占領(1月) シンガポール占領(2月) ラングーン占領(3月) 東京初空襲(4月) ミッドウェー海戦(6月)
1943年(昭和18年)	下水流地区に第二出水海軍航空隊が開隊と同時に出水海軍航空隊を第一出水海軍航空隊と改称(4月1日)	ガタルカナル島撤退(2月) 連合艦隊司令官山元五十六戦死(4月) 上野動物園空襲に備え猛獣を毒殺(9月) 第1回学徒出陣(12月)
1944年(昭和19年)	甲種飛行予科練習生12・13期と予備学生13・14期の隊員が飛行訓練を行う 763航空隊(銀河部隊)が開隊(10月)	サイパン島日本守備隊全滅(7月) 学童疎開始まる(8月) 海軍神風特別攻撃隊編成(10月) 松代大本営着工(11月)
1945年(昭和20年)	練習航空隊(甲飛13期生)が光州に移動 実働部隊の基地となる。(3月) 出水初めて空襲を受ける(3月18日) 攻405・406飛行隊の特別攻撃隊編成 3月18日以降特別攻撃を開始 B29来襲。滑走路、格納庫等を爆撃基地は大破し、民間人を含め多数の死者がでる。 (4月17・18日)	米軍硫黄島上陸(2月) 東京大空襲(3月9日～10日)
	国営出水アルコール工場空襲を受ける。 (8月1日)	米軍沖縄本島上陸(4月) 米軍沖縄本島占領(6月) 広島に原爆投下(8月6日) 長崎に原爆投下(8月9日) 戦争終結の詔書を放送(8月15日)